



高雄山神像寺

梅尾のまゝの華嚴宗にして本寺の釈迦如来明惠上人は開基の紀州の西段
の寺の九歳の時を確にけし後ハ俱舎頭をよめ密を修め實小く難
事景雅なるし又文殊師利小佛一日に九字咒を授け十六歳に利房
東寺に戒壇小僧を授け興然阿闍梨をまゝし兩部は密法とて
まの梅尾小僧賢首宗とてめり又おられし小僧深く自遣心集とて書
ふと集む初勅撰小上人のおのり入給り寛治四年正月十一日寂
梅尾の平徳院の真言密法して開基の智者法師より本寺の釈迦如来
明惠上人の依りあふ子に親まの聖徳をまの法能とてまへし
そのまへも推すの同んたるめまののゆふにけし不れくす 雅經
る雄に社後寺の先に帝社神宇和名の法唐奏回一建立するなり初ハ
社預まて號しぬ傳和帝神宇天長二年小空海小楊の社後寺に言ふ
とめりしめ号に真言密法とて令別定寺の額と空海和尚小まへんと
勅使をませしめりしめりし二月雨をけし河川の水坊りて高難ふれゆ

止るる勅使則川のふりしめりしめりしめりしめりし空海あり
やして寺のまへにめりしめりしめりしめりしめりしめりし
額の面小忽ら令別定寺の四字現る 大行狀記 額書石 石面小窪あり
金堂に本尊薬師如来講堂に又又とて弘法大師の極之極門乃
額に仁和寺之信法親王の納涼坊小の弘法は極後安及又又上人
几画像あり鐘樓に金堂に良小ありて清れ総の管系足若御座の河の
橋度相筆者の若系敏行より足成世小と號と寺朝の名番り
して又又のまへハ幡文の經藏に懸小あり後法にやしめられ
法書に無量をまのふりしめりしめりしめりしめりしめりし
は所いむしめりしめりしめりしめりしめりしめりしめりし
立田の林のまへにありしめりしめりしめりしめりしめりしめりし
まへにありしめりしめりしめりしめりしめりしめりしめりし
都名所圖會卷之六八尾

欽定四庫全書

古今遷建曰帝都天子之居天子以四海為家豈有常處哉惟其所在即以為都都者人之所都會云爾以衆大而言謂之京都周公相成王都洛邑諸侯藩屏四方朝明堂後漢李唐亦都洛陽倣

本朝聖主之例以京師稱洛陽歟抑平安者天下之中而有德無窮之都也從長固之遷都已來歷千載而賢聖在位景星見於天由是庶民浴泰平之化子時遍覽四方山川之勝裁配畫工信繁令模之遷尋昔人之經蹟詳記其由緣全之名曰都名所圖會嗚呼聆左思

之博才蜀都賦歷年所况予撰不涉年
寡聞淺識何雪其耻後君子正遺漏
俟澡洗而已季秋十三夜於斑竹亭書
皆安永九年也

選者 平安 秋里湘夕



京都市寺町二條下

賣捌所

若林茂一郎

大坂市東區北久太郎町四丁目

全

柳原喜兵衛

大坂市東區本町四丁目

全

赤志 忠七

大坂市南區心齋橋南壹丁目

全

松村九兵衛

大坂市東區備後町心齋橋筋角

全

吉岡 平助

帝室博物館御藏品 明治三十一年六月十八日撮影認可

小野道風朝臣真蹟詩卷

金屬版寫真摺
正價金壹圓五十錢

發賣所

東京市神田區佐久間町二丁目番地

西東 書房

明治廿四年六月十三日印刷
明治廿四年六月廿七日發行

東京市下谷區上野公園内字東園

發行兼印刷者

七條

愷



東京市神田區仲町壹丁目三番地

印刷所

金屬版印刷合資會社

東京市神田區佐久間町壹丁目壹番地

發行所

西東書房

東京市神田區鍛冶町四番地

大賣捌所

誠之堂書店

東京市京橋區南傳馬町壹丁目

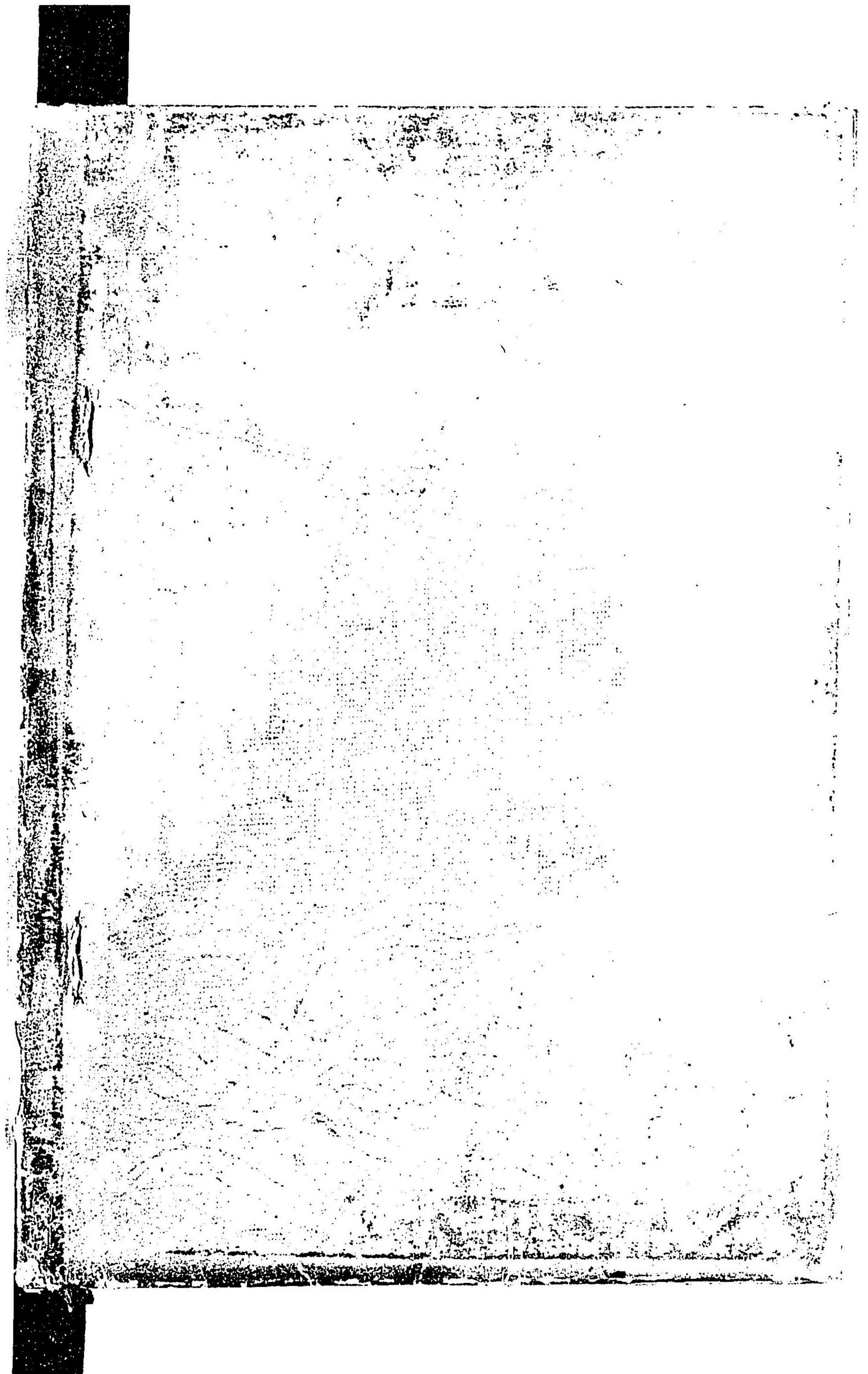
大賣捌所

吉川半七

東京市日本橋區通三丁目六番地

大賣捌所

林平次郎



195
451

卷名所
下卷